# 平成29年度日本結核病学会研究奨励賞 受賞
# 「結核接触者健診における社会ネットワーク分析の活用」

結核予防会結核研究所
臨床・疫学部疫学情報室　泉　清彦

結核患者発見のための積極的疫学調査において，感染経路及び感染場所の特定は最も重要であり，同時に困難なテーマの一つである。それは，個人と個人の関係性の把握が困難なこと，保健所職員の経験や技量に依存していること，接触者健診対象者の選定基準や収集する情報内容が一様ではないことなどに起因している。今後，結核低まん延化を迎えるわが国において，結核接触者健診の経験が保健所内で蓄積されにくい状況になることが予想され，経験のみに依存しない手法の開発が求められている。

近年，結核患者の疫学調査において，対象者間の関係性を定量化・視覚化する手法である社会ネットワーク分析（SNA）が注目され，「接触者健診の手引き」にもその応用可能性が示されている。本論文では，結核接触者健診におけるSNA の有用性を実地の情報を用いて検証し，利点，課題などを整理し検討した。

その結果，SNA で算出される各接触者の初発結核患者との接触時間の推定値が，①優先的対象者の選定，②IGRA 判定保留者への対応，③健診対象者の拡大の検討等に有用である点，更に，④SNA は情報を視覚化し関係者間のコミュニケーションのツールとして活用できることなどが明らかとなった。

本論文が，結核対策の一助となることを祈念いたします。